



# 現場や地方を大事にする

参議院議員 安達きよし

## きよし便り

第3号



皆さん、お元気でいらつしやいますか。新型コロナウイルスに加え、これからの季節はインフルエンザの流行も心配されます。マスク、手洗いなどの基本動作を大事にして、体調管理には十分にお気をつけください。

さて、今年はコロナに振り回された1年でした。その影響は今も続いています。この未曾有のできごとと直面し、図らずも、日本のいろんな課題や改善すべき点があぶり出されました。

今回は特に、「国は政策を末端にまで行き渡らせることができる



コロナ禍で露呈した国の「詰めの甘さ」。もっと想像力を

い。詰めが甘い」ということについて指摘したいと思います。

業者に丸投げの持続化給付金（個人事業主や中小企業に最大100〜200万円を支給する制度）は当初、受付・審査などの現場業務で目詰まりをおこし、申請しても、なかなかお金が給付されない事態が発生しました。

国民全員に配られた特別定額給付金10万円も同じく、自治体によっては、実施の発表から配布完了まで2か月半もかかりました。皆さんのお手元に届いた頃には、たくさんのおマスクが店頭に並んでいたことと思います。

「GOTOキャンペーンはもう訳わからんから、登録せん」という事業主さんに出会ったのも、しょっちゅうです。国の詰めの甘さは、枚挙に暇がありません。

話はさかのぼりますが、先のアジア太平洋戦争の日本の戦没者は約310万人、そのうち軍人は

230万人と推計されています。諸説ありますが、軍人戦没者の約6割の140万人は、栄養失調や飢餓によって命を落としています。実際の戦闘によるものではありません。軍の上層部は兵隊を戦地に送り込んだものの、前線の隊員たちに食料や医薬品を補給するという、基本的な支援態勢を整えていませんでした。軍事用語で兵站（へいた）といいますが、このような杜撰（ずさん）な兵站の国は他にありませんでした。ちなみに対戦国のアメリカカ

